

「交流の家通学合宿～なかまと1週間チャレンジ～」

この1週間で、友達の大切さや、友達と一緒にいることの楽しさを学びました。これからは、自分のことは自分でする、おうちの人が少しでも楽になるように手伝いをするなど、交流の家で学んだことを生かしていこうとする態度が育ってきました。

1 事業実施までの経緯

平成23・24年度の2年間、モデル事業として、小学校長期体験活動（3泊4日）を推進してきた。モデル校と協力しながら、当施設のプログラムを活かした事業を展開することができ、参加児童や教員のアンケートからも、様々な効果を確認することができた。しかし、課題を検証する中で、「教員、参加費の負担」「授業時数の確保」「地域性」等から、小学校長期体験活動の県内他校への拡充には、まだまだ課題が多くあることが分かった。現場の先生方は、長期自然体験活動の効果を認めつつも、実施には多くの課題があることが分かった。

そこで、長期自然体験活動の効果を学校に理解していただくために、また、今後の大洲青少年交流の家における長期自然体験活動推進の方向性を検証するため、昨年通学合宿を計画した。この通学合宿は、市内の同じ中学校に進学する予定の小学校2校に協力をいただき、大洲青少年交流の家に宿泊をしながら、学校へ通う事業である。今年度も、小学校5年生を対象に、6泊7日の日程で実施した。食事、学習、洗濯、入浴等、共同生活をしながら、当所ならではのクラフト活動、スポーツクライミング、天体観測、野外炊飯等のプログラムも取れ入れることで、青少年教育施設を活用した通学合宿になるように工夫した。

2 ねらい

家庭から離れた共同生活の中で、様々な生活体験活動をとおして、子どもたちの自主性や協調性、耐性等の「生きる力」の基盤となる豊かな人間性やコミュニケーション能力を高めるとともに、基本的な生活習慣の定着や規範意識の向上を図る。

- | | | |
|--------|--|---------------|
| 3 主 催 | 独立行政法人国立青少年教育振興機構 | 国立大洲青少年交流の家 |
| 4 期 日 | 平成27年2月15日（日）～21日（土） | 【6泊7日】 |
| 5 後 援 | 大洲市教育委員会 | |
| 6 場 所 | 国立大洲青少年交流の家 | |
| 7 参加人数 | 大洲市立大洲小学校 5年生 8名
大洲市立久米小学校 5年生 10名 | 計18名（募集人数15名） |
| 8 講 師 | 大洲市教育委員会学校教育課長 松井 康之 氏
国立大洲青少年交流の家企画指導専門職 | |

9 日程及び活動内容

【2月15日（日）：1日目】

10:30			12:00	13:00	15:00	18:00		20:30	21:30			
受付	入所式	IKR・本部 アンケート記入	OR① (生活)	昼食	OR② (班別協議)	調理実習① カレー作り	生活・学習・仲間タイム (学習・班活動・入浴)	ふりかえり 就寝準備	就寝			

【2月16日（月）～18日（水）：2～4日目】

6:00			6:50	7:30		17:00	18:00		20:30	21:30		
起床	清掃 整理	登校準備 健康観察	つどい 朝食	バス送迎 学校 バス送迎	つどい 夕食	生活・学習・仲間タイム (学習・班活動・入浴)	ふりかえり 就寝準備	就寝				

※ 2日目、4日目、6日目には洗濯タイム

【2月19日（木）：5日目】

6:00			6:50	7:30		17:00	18:00	19:00	20:00	22:00		
起床	清掃 整理	登校準備 健康観察	つどい 朝食	バス送迎 学校 バス送迎	つどい 夕食	生活・学習 タイム	天体観測	入浴 ふりかえり 就寝準備	就寝			

【2月20日（金）：6日目】

6:00			6:50	7:30		17:00	18:00	19:00	20:00	22:00		
起床	清掃 整理	登校準備 健康観察	つどい 朝食	バス送迎 学校 バス送迎	つどい 夕食	生活・学習 タイム	クラフト体験	入浴 ふりかえり 就寝準備	就寝			

【2月21日（土）：7日目】

6:30			7:00	8:00	9:30	10:30	13:00	13:30				
起床	清掃・整理 健康観察	つどい 朝食	清掃 荷物整理 退所点検	スポーツ クライミング	調理実習② ポーク丼作り	IKR・本部 アンケート記入	退所式	解散				

※ 保護者対象事前説明会 2月9日（月）19:00 開催

10 活動内容

〈第1日【2月15日（日）】〉

「オリエンテーション①・②」

まず、「1週間後の成長」を意識したこの事業の趣旨説明を行い、1週間で過ごす上での「自分自身のめあて」、「班のめあて」、全員で守っていく「5つの約束」を話し合った。また、参加した小学生の緊張をほぐすことを目的として、アイスブレイクや班の旗作りを行った。自分や班のめあてを書き入れたり、得意なイラストを描き加えるなど、各班工夫を凝らした個性あふれる旗が出来上がった。



「調理実習」

最初のグループ活動として野外炊飯（カレー作り）を実施した。初めて会う友達同士が、同じ目的に向かって協力して活動することは、グループの連帯感を高める上で大変有効なプログラムである。ご飯を炊く係、カレーを作る係に分かれ、手際よく調理することができ、班の交流が深まった。



〈第2日～5日【2月16日（月）～20日（金）】〉

16日（月）からは、当所からの登校である。学校のある日は毎朝6時に起床し、朝のつどい、朝食、登校準備をした。初めは、時間に間に合わない児童もいたが、3日目を過ぎると見通しをもって行動できるようになり、お互いが声をかけながら準備する姿も見られるようになった。下校後は、夕べのつどい、夕食、学習、洗濯などを行った。学習時には、宿題や自主学習等、約1時間熱心に取り組むことができた。分からない問題は、スタッフや運営補助として参加した愛媛大学学生に質問することができた。音読も毎日スタッフがチェックし、学校の音読カードに記入した。保護者対象説明会にて、勉強時間を伝え、さらに自主学習の用意をしておくよう保護者に依頼をしていたため、どの児童も決められた時間、集中して学習に取り組むことができた。



洗濯は期間中、3回行った。洗濯機を使ったり、洗濯物を干したりすることが初めての児童もおり、毎日洗濯をしている保護者に対し、感謝の言葉を口にする者もいた。さらに、ふりかえりの時間には保護者がしてくれている家事の大変さに気づき、手伝いたいと意欲を表す者もいた。また、友達同士で、干し方やたたみ方を教えあう場面も見られた。布団、シーツも自分たちで敷き、荷物の整理もきちんと行っていた。



参加児童の小学校にも協力をいただき、スタッフ、大学生が授業参観を行った。これは、学校での様子を参観することで、児童の実態を把握し、当所での生活に活かしたり、学校生活、健康状態等、学校との情報交換をしたりすることを目的としている。また、大学生たちは、将来教員を目指していることもあり、授業の進め方、教室環境など、大変参考になったようである。

「大洲青少年交流の家プログラム」

充実した合宿になるよう、交流の家ならではのプログラムを取り入れた。紙すき体験では、班の友達と協力して、ハガキ作りに挑戦した。初めは、紙を均等にすくことがで

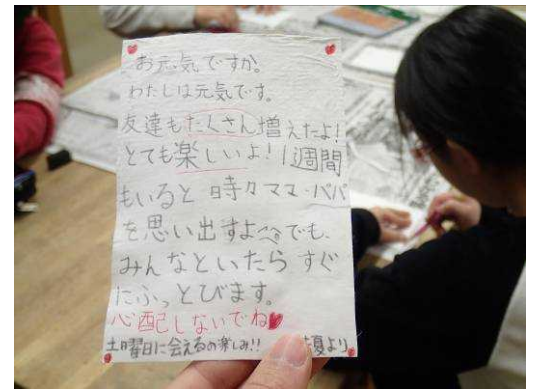


きなかったものの、友達同士でコツを教え合い、何回も挑戦する姿が見られた。徐々に、うまくいくことができるようになり、きれいなハガキを作ることができた。ハガキが乾いた後、おうちの人へ通学合宿中の様子を中心に心のこもった手紙を書いていた。

天体観測では、望遠鏡を使い木星やオリオン座、冬の天三角などを観測したり、星座にまつわるお話を聞いたりした。天体望遠鏡を通して自分の目で木星の衛星や縞模様を確認したときには歓声が上がった。4年生の理科で星座を学習している子どもたちにとって、今回の天体観測は学習内容をより深化させるものとなり、児童にとっては楽しく充実した活動になった。

クラフト活動にも取り組み、竹箸を製作した。最終日の調理実習で、実際に作った竹箸で食事をするということもあり、慣れない手つきではあったものの、小刀やサンドペーパーを使い、個性的な竹箸が出来上がった。

最終日には、スポーツクライミングにも挑戦した。全員が果敢に挑戦し、中には約8mの高さまで登りきった児童もいた。また、他の児童を応援する姿が随所に見られ、1週間の生活で互いを認め合い、励まし合う態度が育っていることを確認した。



〈第7日【2月21日（土）】〉

最終日は、朝食後、荷物整理、宿泊部屋や研修室の清掃などを行った。

「次の人が気持ちよく使えるように、来たときよりも美しく」を合言葉に各部屋に分かれて、隅々まで丁寧に清掃した。この1週間で「自分の仕事をきちんとする」という態度が育っており、どの児童も一生懸命作業に取り組んでいた。

最後のグループ活動として、昼食の「ポーク丼」作りに挑戦した。初日にカレー作りを体験していることもあり、自分たちで役割を決め、ごはんを炊いたり、お肉を炒めたりと手際よく調理することができていた。自分たちで作った竹箸で食べたこともあり、とても楽しい昼食になった。自分たちで考え、解決していく場面が多く見られ、1週間の成長を感じることができる活動になった。



退所式では、1週間を振り返り、「できるようになったこと」、「これからも続けていきたいこと」などを中心に日記にまとめた。感想の中には「早寝、早起き、朝ごはんができるようになったので、これからも続けていきたい」、「いつもお母さんにしてもらっていることが、大変なことだとよく分かったので、これからお手伝いをしてお母さんを助けたい。」等、今後の家庭、学校生活で活かしていこうという前向きなものが多くあった。最後に、修了証を授与して、1週間の通学合宿の全日程を無事終了した。



1 1 参加者の声

参加者の事後アンケートの結果

【小学生】

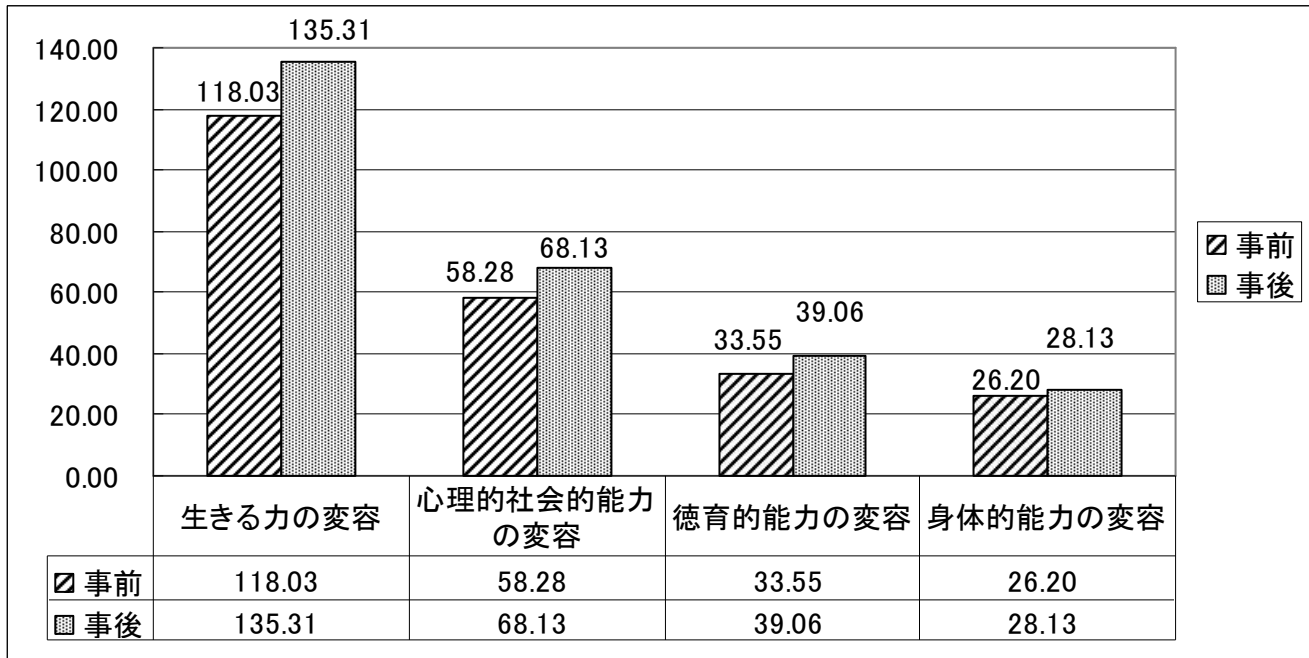
* 満足：93.8% * やや満足：6.2% * やや不満：0.0% * 不満：0.0%

- 宿泊だけではなく、野外炊飯や紙すき、クライミング、天体観測、竹ばし作りなどいろいろなイベントがあり、楽しい一週間となった。
- たくさんのことができるようになったので、これからも学校や家でできるようになったことを頑張りたい。
- 他の学校の人とも、友達になれてよかった。
- 初めは不安が大きかったけど、全て楽しかった。
- お母さんたちがやっていることの大変さが分かったので、お手伝いをたくさんしたいと思いました。
- 一週間は長いと思っていたけど、とても短かった。
- 早寝早起きが苦手だったけど、全然平気になった。
- いろいろなことをすることが好きになった。

1 2 成果と課題

【成果1】IKR（生きる力）評定用紙（簡易版） 事前事後の比較

本事業での体験が、児童にどのような変化をもたらせたのかを調査するために、「IKR（生きる力）評定用紙（簡易版）」を実施した。次頁のとおり、全ての項目において、事業前に比べ、事業後にその数値が向上した。本事業との関連性を明確にすることはできていないが、児童もこの事業を通して成長し、自信をつけることができたと考えている。特に「先を見通して、自分で計画が立てられる」「だれにでも話しかけることができる」等、コミュニケーション能力、判断力、計画性の項目の向上が顕著に見られた。その他にも、「花や風景などの美しいものに感動できる」「前向きに、物事を考えられる」「人の話をきちんと聞くことができる」の項目の数値にも向上が見られた。



【成果2】今後の小学校長期宿泊体験活動推進の方向性

冒頭の事業実施の経緯でも述べたように、愛媛県内においては「教員の負担」「授業時数の確保」「地域性」等の課題から、長期自然体験活動の普及が難しいのが現状である。特に大洲市内については、市内すべての小学校が平成25年度から1泊2日の日程になり、当所を利用している県内小学校全47校も、約5割が1泊2日で、今後も増加していく傾向にある。事業後、学校、保護者にアンケートを実施してみると「参加した児童はとても楽しく過ごせていた」「1週間、とても充実した様子で学校に通うことができおり、学校ではできないすばらしい事業だった」「早寝・早起き・朝ごはん、学習、洗濯など、長期の合宿でこそ効果的な指導ができる」（学校より）、「子どもたちの成長が見られた」、「実施回数を増やし、1週間ではなく、2週間にしてほしい」「よく手伝いをするようになった」（保護者より）等、前向きな意見が多くあった。青少年教育施設の目的の一つである「学校ができないことを補完する」、「社会、地域のニーズに沿った体験活動の提供」という2点においては、今回の事業は、有効かつ地域のニーズに合った新たな取組ではないかと考える。

【成果3】愛媛大学との連携強化

今回の事業実施にあたり、運営補助として愛媛大学教育学部2回生1名と愛媛大学農学部3回生1名の学生の協力を得ることができた。2名とも将来教員を目指していることもあり、生活指導、学習指導等、大変意欲的に活動していただき、運営面で多大な貢献をしていただいた。愛媛大学もこの事業に興味を示していただき、今後は「地域連携実習」の1つにも認定していただく予定である。

【成果4】運営スタッフの確保

今年度は、当所職員4名、運営補助の大学生2名で実施した。運営スタッフでシフトを組み、ゆとりをもった運営計画を立てて実施することができた。参加児童の健康や安全に留意しながら運営するためにも、今年度同様に運営スタッフを確保し、心身ともにゆとりのある運営を目指したい。

【課題1】対象学年、学校の検討

昨年度の参加者や今年度の参加者からも「また、通学合宿に参加したい。」という声が多数あがっている。大洲市内には小学校14校、中学校9校があるが、登下校時の送迎の関係から通学合宿が可能な中学校校区は2校に絞られるため、1校で異学年の構成や2校以上の異学年での構成、別の中学校校区での実施等、様々なパターンで児童ニーズに応えていきたい。また、何をねらいにするかによって対象学年、学校のパターンが決定するので、事業のねらいを明確に設定し、より効果の高い通学合宿になるよう検討する必要がある。

【課題2】生活時間の検討

登校時間に合わせて、起床やつどい、朝食の時間を設定した。どうしても朝食から大洲青少年交流の家を出発するまでの時間が慌ただしく、ゆとりをもって行動することが困難であった。下校時間に関しても、学校や児童ごとに下校時間に大きな差があった。今回は、学校にご協力いただき、マイクロバス2便で下校できるよう下校時間を調整していただくことで、下校後の時間も滞りなく進めることができた。来年度も下校時間の調整や、登校までの時間に関しても朝食の開始時間をもう少し早めていただくなど、関係機関に協力していただきながら運営する必要がある。